

第 64 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2020. 7. 14 鈴木 里菜

『ルムジェブ注』

日本イーライリリー(株) 長瀬様

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、熊山ともみ、味田村俊次、木村亜希子、吉井智子、
清田好美、隅山穂子、鈴木亜湖、鈴木里菜

ルムジェブ注は、既存の超速効型インスリンよりも皮下からの吸収を早めた新規の超速効型インスリンアナログ製剤である。

【効能・効果】

インスリン療法が適応となる糖尿病

2 型糖尿病においては急を要する場合以外は、予め糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分行ったうえで適用を考慮すること。

【用法・用量】

通常、成人では 1 回 2～20 単位を毎食事開始時に皮下注射するが、必要な場合は食事開始後の投与とすることもできる。ときに投与回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用することがある。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量としては通常 1 日 4～100 単位である。

【禁忌】

1. 低血糖症状を呈している患者
2. インスリンリスプロ又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【副作用】

重大な副作用として低血糖、アナフィラキシーショック、血管神経性浮腫。その他、注射部位反応（発疹、発赤、炎症、疼痛、出血、搔痒感）。

【特徴】

・6/17 発売の超速効型インスリン製剤。ミリオペン、ミリオペンHD、カート、100 単位/ml の4 剤形。

・ヒューマログよりも速やかな血中濃度の立ち上がり

ルムジェブはヒューマログにトレプロスチニルとクエン酸を加える事で、より作用発現時間を早め、消失も早くなっている。

・食後血糖値の上昇を抑制

1 型または2 型糖尿病患者への食事開始時投与において、ルムジェブはヒューマログに比べてベースラインからの HbA1c 変化量では非劣性が、食後 1 時間及び 2 時間の血糖値上昇幅のコントロールでは優越性がみられた。

・食事開始時投与だが、必要な場合は食事開始後投与も可能

食事開始時に投与する場合は食事の前 2 分以内、食事開始後に投与する場合は食事開始後 20 分以内

・安全性

低血糖症状はヒューマログと大きな差はなし

【考察】

ルムジェブ注はよりよい血糖コントロールの実現のために、健康な人のインスリン分泌により近いインスリン動態の再現を目指し開発された製剤。

ヒューマログ注の有効成分に添加物を加えることで皮下からの吸収を高め、より速やかな血中濃度の立ち上がりと消失により、より生理的なインスリンに近づいている。

また、食事開始時のみだけでなく食事開始後も 20 分以内であれば投与可能であり、食事と投与のタイミングによる患者の負担軽減が期待される。

食生活や労働環境など多様化する社会において糖尿病患者さんへよりよい糖尿病治療のための新たな選択肢の一つとなる。

しかし、ヒューマログ注よりも注射部位疼痛の報告があり、注意を指導する必要がある。